

# 事務局便り

令和2年10月16日

\*7月に機関誌2号とともに同封し、会員の皆様に「紙上総会」の形でご審議をお願いしました議案についてご報告いたします。

①令和元年度会務報告 ②令和元年度会計報告 ③令和元年度会計監査報告 ④令和2年度役員 ⑤令和2年度事業計画 ⑥令和2年度予算 ⑦令和3年度研究主題及び発表県 ⑧令和4年度研究主題及び発表県  
以上8件について、すべて承認されました。(決算及び予算、役員につきましては、お手元の3号p.32をご覧ください。) ご協力ありがとうございました。

\*今号は例年ならば“研究大会特集号”となるはずでしたが、コロナ禍のためやむなく中止としましたので、急遽、編集担当の常任理事の先生方とご相談をして、「**コロナ禍と家庭科教育**」をテーマに“**緊急特集号**”として編集をしました。5人の先生方にご執筆依頼をいたしましたところ、皆さま快くご執筆いただきました。改めて感謝申し上げます。

今年度は東京オリンピック開催時期との重複を避けるため、例年より研究大会日程を2週間程度遅らせておりましたので、機関誌の発行予定日も例年より遅くなる予定でしたが、編集内容を大きく変えざるを得ませんでしたので、お手元にお届けすることが更に遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

\*マスク生活も半年以上が過ぎてすっかり生活に馴染んできたように思います。夏頃まではマスク無しで自宅を出てしまい、慌てて取りに帰ったこともしばしばありました。先日ニュースを見ていましたら、周囲の大人のマスク姿が乳幼児の心の発達に影響を与えているとの懸念が取り上げられていました。

『乳児期の親と子の絆をめぐって』の著書がある、しぶいこどもクリニック(東京都大田区)の渋井展子(ひろこ)院長(昭和大学医学部小児科客員教授)は、乳児の発達には「周囲との交流が欠かせない」と解説しています。

新生児の脳は、生命維持に必要な呼吸や心拍、食欲を司る脳幹と不安を察知する扁桃体だけが完成された状態で生まれてきます。それ以外の脳の発達は、お世話をする人と環境により作られます。乳児期の環境が、赤ちゃんの人間性の土台を作る。子どもの人格の基礎を形成する重要な時期です。建築に例えれば、やり直しがきかない基礎工事に当たります。

赤ちゃんは親との信頼関係を結ぶことで、安心を深め共感能力を養い、対人関係の基礎を学んでいる。その反面、乳児期に不満や不安な状態を泣いて知らせても対応してもらえず、愛着の絆が結べないと、脳幹での感覚が調節できない。興奮を収めることができなくなるため、不安感だけが発達してしまうという。

5歳までに、特定の養育者との間にうまく信頼関係を築けないままだと、『愛着障害』になることがあります。自分の感情の調節が難しくなり、表情を読み取る能力が低くなって、喜びや恐怖といった感情への反応も薄くなる。心のよりどころとなる存在がないため、ストレスに耐える力が身につかない可能性があります。

渋井院長が警戒するのは、「マスク」付きの生活による影響です。子どもから見れば、マスクを着けた大人たちは、口の形が見えにくく、表情がわかりにくい。赤ちゃんは、大人のみだけ見ても、笑っているのか怒っているのか、わかりません。この状況が数年続けば、表情を見て感情を認知する能力への影響があるかもしれません。また、口の動きを見ながら言葉を覚えていきますが、いまはそれも難しくなっています。

\***緊急調査「コロナ禍での家庭科教育の現状」**では、ご多用の中多くの先生方からの回答が寄せられました。ありがとうございました。調査項目については、常任理事の先生方など現場の先生方のご意見やご協力を得て作成しましたが、集計は河野会長がすべてを担当して、今回「速報」として別紙にまとめました。私も大変興味深く読みました。是非お読みください。

\***「春期研修会」**について

昨年度の春期研修会(令和2年3月30日実施予定)は、コロナ禍により中止としましたが、今年度の春期研修会はぜひ実施したいと考えております。新型コロナウイルス感染の収束は今の所望めませんので、オンラインでの開催を検討しています。

4号機関誌送付時に詳しくご案内いたします。どうぞご期待ください。